

逆接の接続助詞の生起条件

言語学・応用言語学専門分野
1LT09047W
桐原 美咲
2009（平成 21）年入学
2014（平成 26）年 1 月提出

要旨

逆接の接続助詞「**ノニ**」を用いた「**A ノニ B**」構文は、**A** に話者の期待や意思や予想、**B** にそれに反する結果や事実が来る場合に容認可能であると説明されてきたが、どんな場合に容認不可能となるかについては、明確に述べられてこなかった。本論文は、この点を明らかにするために、次のように主張した。「**A ノニ B**」は、**A** と **B** の表す内容が「自分の他者に対する評価」と「他者（の現在の状態／完了した行為）に対する推測」である場合、語順に関係なく容認されない。また、「**A ノニ B**」は、**A** が「他者の未来の状態／行為に対する予測」を表している場合には容認されないが、**B** が「他者（の現在の状態／完了した行為）に対する推測」もしくは「事実の記述」を表す場合に限り、容認可能である。さらに「**A ノニ B**」は、**B** が「自分の未来の行為に対する意思」を表している場合には、容認されないが、**A** が「事実の記述」を表す場合に限り容認される。「**A ノニ B**」は、**A** が「自分の未来の行為に対する意思」を表し、**B** が「自分に関すること」を表している場合には、容認されない。そして、これらの場合以外であれば、「**A ノニ B**」構文は容認可能である。

目次

1. はじめに	1
2. 本論文の主張により説明可能な事実.....	4
2.1. ノニが容認されない例①.....	4
2.2. ノニが容認されない例②.....	5
2.3. ノニが容認されない例③.....	6
2.4. ノニが容認されない例④.....	7
2.5. ノニが容認される例.....	9
3. 先行研究との比較	15
3.1. 角田（2004）.....	15
3.1.1. 角田（2004）の主張.....	15
3.1.2. 本論文の主張の優位性.....	16
3.2. 蘇鷹（2007）.....	17
3.2.1. 蘇鷹（2007）の主張.....	17
3.2.2. 本論文の主張の優位性.....	18
3.3. 永嶋（2007）.....	18
3.3.1. 永嶋（2007）の主張.....	18
3.3.2. 本論文の主張の優位性.....	19
4. まとめと今後の課題.....	20
参考文献.....	21

1. はじめに

一般的に、逆接の接続助詞には、ガ・ノニ・ケレド・ナガラ・ニモカワラズ・ツツなどがある。ノニはこれまで、例えば、金（1991）でガと比較され、池上（1997）でナガラ・モノノ・ケレドモとの使い分けの条件が論じられているように、他の逆接の接続助詞と比較する形で考察されることが多かった。その中でも特に、ノニとケドは、同一文中での言い換えが可能であるかについて益岡・田窪（1982）や蘇鷹（2007）、永嶋（2007）、中溝（2003）など、様々な論文の中で述べられてきた。これらの表現は、どちらも逆接を表す接続助詞でありながら、逆接の文であれば常に容認可能なわけではなく、さらに、どのような場合に容認可能となるかも異なる場合がある。例えば、(1)は、ノニが容認可能でケドが容認不可能な例で、(2)は、ノニが容認不可能でケドが容認可能な例である。

- (1) a. 満席とは限らない**のに**、電話で確認もせずにあきらめるなんて。
*満席とは限らない**けど**、電話で確認もせずにあきらめるなんて。
b. 顔もよくて性格もいい**のに**、どうして長い間彼女がいないんだろうね。
*顔もよくて性格もいい**けど**、どうして長い間彼女がいないんだろうね。
- (2) a. *きっと母は彼を見た目で悪い人だと決めつける**のに**、私は彼を優しい人だと思う。
b. きっと母は彼を見た目で悪い人だと決めつける**けど**、私は彼を優しい人だと思う。

このように、ノニはどのような時にケドと言い換えが可能であるかという点については考察されてきたが、そもそもノニそのものの生起条件については、例えば、今尾（1993）や丹羽（1998）などがあるものの多くはない。そこで本論文では、ノニがどのような場合に容認可能であり、どのような場合に容認不可能であるかを明らかにする。

本論文では、以下のようなノニの前件（以下 A）と後件（以下 B）に節が来る場合の生起条件を考察する¹。

- (3) a. [A 5年間ピアノを習った]**のに**、[B 大して上達しなかった]。
b. [A 美味しそうな]**のに**、[B 食べてみるとそうでもない]。

¹ノニを用いた文には以下の例があるが、本論文ではノニの後件が現れていない場合は扱わない。

- (i) a. 君も遊びに来てくれたらいい**のに**…。
b. せっかく準備しておいた**のに**…。

次のように前件と後件が名詞句として表れているものもあるが、これは前件と後件の示す内容が逆接になっていないために考察対象とはしない。

- (ii) a. ケーキ**なのに**、アイス。
b. 冬**なのに**、すいか。

(5)のような「AノニB」において、Aに話者の期待や意思や予想、Bにそれに反する結果や事実が来る場合、(4)(5)の例の通りノニは容認される。

- (4) a. 何度も練習したのに、本番では失敗してしまった。
b. セールなのに、あまり安くなっていなかった。

- (5) a. この論文は2度も読んでみたのに、理解できなかった。
(益岡・田窪 1982:p.195(58)一部改変)
b. 何度も説明したのに、理解してもらえなかった。(益岡・田窪 1982:p.195(59))
c. 彼はそのことを知っていたのに、隠していた。(益岡・田窪 1982:p.196(60)一部改変)

(4)(5)のようなノニの生起について、益岡・田窪(1982)は(6)のように述べている。

- (6) ノニは、ある事態の成立に伴い別の事態も成立すると予想されるのに、実際にはそれが成り立たない、またはその期待が裏切られることを表す。逆接表現が、事態というより属性間の逆接関係を表すこともある。

(6)に従うと、(5a)は、「この論文は2度読んでみた」ことにより「理解できた」ことが予想・期待されるが、実際にはそれが成り立たず、「理解できなかった」ことを表しているために、容認可能である、と説明することができる。さらに、(6)に従うと、(7)のように逆接ではない場合には容認不可能であると、予測される。

- (7) a. *この論文は2度読んでみたのに、ようやく理解できた。
b. *何度も練習したけど、本番で見事成功した。

しかし、逆接を表しているにもかかわらず、容認されないノニが存在する。

- (8) a. *彼女は無愛想なのに、人気があるかもしれない。
b. *その傘はおそらく壊れているのに、私は使える気がする。

では、ノニの生起条件はどのように考えるべきか。本論文はノニの生起条件は次のようになっていると考えたい。

- (9) 「AノニB」は、AとBの表す内容が「自分の他者に対する評価」と「他者(の現在の状態/完了した行為)に対する推測」である場合、語順に関係なく容認されない。

- (10) 「AノニB」は、Aが「他者の未来の状態/行為に対する予測」を表している場合には、容認されない。ただし、Bが「他者(の現在の状態/完了した行為)に対する推測」もしくは「事実の記述」を表す場合に限り、容認される。

- (11) 「AノニB」は、Bが「自分の未来の行為に対する意思」を表している場合には、容認されない。ただし、Aが「事実の記述」を表す場合に限り容認される。

- (12) 「AノニB」は、Aが「自分の未来の行為に対する意思」を表し、Bが「自分に関すること」を表している場合には、容認されない。

以下、ノニの容認可能性が(9)-(12)に従っている事実を示す。

2. 本論文の主張により説明可能な事実

2.1. ノニが容認されない例①

(13)は容認不可能な例である。

(13) *彼女は無愛想なのに、人気があるかもしれない。

(13)の A は、彼女に関する一般的な事実を表すのではなく、話者が彼女を「無愛想だ」と判断し評価していることを表すため、「自分の他者に対する評価」である。また、(13)の B は、彼女が現在「人気がある」状態であると話者が推測していることを表すため、「他者（の現在の状態／完了した行為）に対する推測」である。さらに、(14)も容認不可能な例である。

(14) *彼女は人気があるかもしれないのに、無愛想だ。

(14)は、A が「他者（の現在の状態／完了した行為）に対する推測」、B が「自分の他者に対する評価」であり、(13)とは A と B が表す内容は逆の順番となっている。つまり、(13)(14)が示しているのは、A と B が表す内容が「自分の他者に対する評価」と「他者（の現在の状態／完了した行為）に対する推測」である場合には、語順に関わらず容認不可能になるということである。これは、上述した(9)の通りである。

(9) 「A ノニ B」は、A と B の表す内容が「自分の他者に対する評価」と「他者（の現在の状態／完了した行為）に対する推測」である場合、語順に関係なく容認されない。

(15)(16)の例も(13)(14)と同様に(9)に従っていることを示す例である。(15)は、A が「自分の他者に対する評価」、B が「他者（の現在の状態／完了した行為）に対する推測」を表している。

- (15) a. *彼女は無愛想なのに、いい人かもしれない。
b. ??彼女は、見た目は派手なのに、実はすごく純粋な人なのかもしれない。

そして(16)は、A が「他者（の現在の状態／完了した行為）に対する推測」、B が「自分の他者に対する評価」を表した例である。

- (16) a. *その傘はおそらく壊れているのに、私は使える気がする。
b. *彼女はいい人かもしれないのに、すごく無愛想だ。
c. *彼女はすごく純粋な人かもしれないのに、見た目は派手だ。

- d. *このパンは美味しそうに見えるかもしれないのに、食べてみるとそうでもない。

以上のように、「A ノニ B」構文は(9)が示す通り、A と B が表す内容が「自分の他者に対する評価」と「他者（の現在の状態／完了した行為）に対する推測」である場合には、語順に関わらず容認不可能である。

2.2. ノニが容認されない例②

(17a-d)において、A は全て「他者の未来の状態／行為に対する予測」を表している。(17a)では、A は話者が母に対して「母が私にお見合いをすすめる」ということを事前に予測していることを表している。

- (17) a. *きっと母は彼を見た目で悪い人だと決めつけるのに、私は彼を優しい人だと思う。
b. *今日も彼は遅刻するかもしれないのに、私は彼をやれば出来る人だと思っている。
c. *母は私にお見合いをすすめてきそうなのに、私はすぐに断るだろう。
d. *母は妹にお見合いをすすめてきそうなのに、妹はすぐに断るだろう。

(17)のように、A が「他者の未来の状態／行為に対する予測」を表している場合には、「A ノニ B」は容認不可能である。

ところが、(18)(19)は、A が「他者の未来の状態／行為に対する予測」を表すにもかかわらず、容認可能な例である。(18a)の B は、話者が母に対し「全然準備をしていない」と推測していることを表しており、B は「他者（の現在の状態／完了した行為）に対する推測」である。容認可能な(18)は、全て B が「他者（の現在の状態／完了した行為）に対する推測」を表している。

- (18) a. 母は明日旅行に行くかもしれないのに、全然準備をしていないんだろうなあ。
b. 彼は少し遅れるかもしれないのに、どうせ急いでいないんだろうなあ。

(19a)の B は、「彼が連絡をしていない」という事実を表しており、いわば、B の表す内容は「事実の記述」である。容認可能な(19)は、全て B が「事実の記述」を表している。

- (19) a. 彼は少し遅れるかもしれないのに、連絡の一つもしなかった。
b. 母は私にお見合いを勧めて来るかもしれないのに、私には好きな人がいる。
c. きっと母は彼を見た目で悪い人だと決めつけるのに、彼は母と仲良くなるのを楽しみにしている。

(17)(18)(19)より、「A ノニ B」構文は上述の(10)の条件に従っている。

(10) 「AノニB」は、Aが「他者の未来の状態／行為に対する予測」を表している場合には、容認されない。ただし、Bが「他者（の現在の状態／完了した行為）に対する推測」もしくは「事実の記述」を表す場合に限り、容認可能される。

2.3. ノニが容認されない例③

(20a-d)において、Bは全て「自分の未来の行為に対する意思」を表している。例えば、(20a)では、Bは、話者の「飲み会に行かない」という未来への意思を表している。

- (20) a. *明日の飲み会はすごく楽しそうなのに、私は行かないつもりだ。
b. *私は少し遅れるかもしれないのに、一番前の席で参加するつもりです。
c. *母は私にお見合いをすすめてくるかもしれないのに、私は一切結婚するつもりがない。
d. ??その傘はおそらく壊れているのに、私はそれを使うつもりです。

(20)のように、Bが「自分の未来に対する意思」を表している場合には、「AノニB」は容認不可能である。

ところが、(21)は、Bが「自分の未来に対する意思」を表すにもかかわらず、容認可能である。

- (21) a. 母から早く帰宅するように叱られたばかりなのに、私は今夜も友達と夜遊びするつもりだ。
b. 明日健康診断があるのに、お酒を飲みに行くつもりだ。

(21a)のAは、「母から早く帰宅するように叱られたばかりだ」という事実を表しており、いわば、Aの表す内容は「事実の記述」である。(21b)も同様に「健康診断がある」という事実を表している。(20)(21)より、「AノニB」構文は上述した(11)の条件に従っていると言える。

(11) 「AノニB」は、Bが「自分の未来の行為に対する意思」を表している場合には、容認されない。ただし、Aが「事実の記述」を表す場合に限り容認される。

以下の(22)-(25)の例は、(20)と同じようにBが「自分の未来の行為に対する意思」を表しており、どれも容認性が低い。(22)は、Aが「自分の他者に対する評価」を表している。

(22) *彼はとてもいい人なのに、一緒に食事には行かないつもりだ。

(23)は、Aが「自分の気持ち」を表した例である。

- (23) a. *先生方に酷評されるかもしれないのに、この論文を発表するつもりです。
b. *売れないかもしれないのに、歌手になるという夢は諦めません。

(24)は、Aが「他者の未来の状態／行為に対する予測」を表した例である。

(24) *母は私にお見合いをすすめてくるかもしれないのに、私は一切結婚するつもりがない。

(25)は、Aが「他者（の現在の状態／完了した行為）に対する推測」を表した例である。

(25) ??このペンは多分花子のものだと思うのに、私は自分のものとして使い続けるつもりだ。

(26)は、Aが「自分の未来の行為に対する意思」を表した例である。

- (26) a. *朝起きたらすぐ出発するつもりなのに、朝ご飯は欠かさず食べようと思う。
b. *お年玉は全て貯金するつもりなのに、靴だけは買おうと思う。

以上のように、「AノニB」構文は(11)が示す通り、Bが「自分の未来の行為に対する意思」を表しているとき、Aが「事実の記述」を表す場合以外は何らかの内容を表していても、容認不可能である。

2.4. ノニが容認されない例④

(27)-(32)において、Aは全て「自分の未来の行為に対する意思」を表している。その中でも、(27)-(28)は容認不可能な例文である。

- (27) a. *私は行かないつもりなのに、明日の飲み会はすごく楽しそうだ。
b. *一緒に食事には行かないつもりなのに、彼はとてもいい人だ。

- (28) a. *一番前の席で参加するつもりなのに、少し遅れそうです。
b. *この論文を学会で発表するつもりなのに、先生方に酷評されるかもしれない。
c. *歌手になるという夢は諦めるつもりはないのに、売れないかもしれない。

- (29) a. *朝起きたらすぐ出発するつもりなのに、朝ご飯は欠かさず食べようと思う。
b. *お年玉は全て貯金するつもりなのに、靴だけは買おうと思う。

これらの例において、Bが何を表しているかということについて見直したい。まず、(27)のB

は「自分の他者に対する評価」である。(27a)では、B は話者が明日の飲み会に対して「すごく楽しそうだ」と評価していることを表している。また、(28)の B は「自分の気持ち」である。(28a)では、B は話者が自分の未来に対し「少し遅れそうだ」と予測していることを表している。次に、(29)の B は「自分の未来の行為に対する意思」であり、(29a)では、B は話者の「朝ご飯は欠かさず食べよう」という未来に対する意思を表している。この例は、B が「自分の未来の行為に対する意思」を表しているとき、A が「事実の記述」を表す場合以外は、どのような内容を表していても容認不可能である、という(11)の条件とも矛盾しない。このように、(27)-(29)の B が表しているのは、「自分の他者に対する評価」、「自分の未来の行為に対する意思」、「自分の気持ち」というように、全て「自分に関すること」を表している、という共通点がある。

一方、(30)-(32)は容認可能な例文である。(30)の B は「事実の記述」であり、例えば(30a)では、B は「もうビールを飲んでしまった」という事実を表している。

- (30) a. 今から飲み会に行くつもりなのに、もうビールを飲んでしまった。
b. 私は今夜も友達と夜遊びするつもりなのに、母は夜遊びは許さないと怒っている。

(31a)では、B は、話者が天気に対して「雨がどんどん強くなる」ということを事前に予測していることを表している。

- (31) a. 今から飲み会に行くつもりなのに、雨はどんどん強くなるだろうなあ。
b. 私は一番前の席で参加するつもりなのに、花子はそれを嫌がるだろうなあ。

(32)の B は、「他者（の現在の状態／完了した行為）に対する推測」である。(32a)では、B は、話者が裕子に対して「もうすでに苺のアイスを食べってしまった」ということを推測していることを表している。

- (32) a. ?私は苺のアイスを食べるつもりなのに、裕子が食べてしまったかもしれない。
b. 今から歩いて飲み会に行くつもりなのに、雨が降っているだろうなあ。

(30)-(32)の通り、B の表す内容が「事実の記述」、「他者の未来の状態／行為に対する予測」、「他者（の現在の状態／完了した行為）に対する推測」といった「自分に関すること」ではない、という共通点がある。つまり、(27)-(32)が示しているのは、A が「自分の未来の行為に対する意思」を表している場合には、B が「自分に関すること」を表すと、ノニは容認されないということである。これは、上述した(12)の通りである。

- (12) 「A ノニ B」は、A が「自分の未来の行為に対する意思」を表し、B が「自分に関すること」を表している場合には、容認されない。

2.5. ノニが容認される例

(9)-(12)に抵触していない「A ノニ B」文は、逆接を表す文において、容認可能である。以下で示す(33)-(50)は全て容認可能な例である。

まず、「A ノニ B」において、A が(10)で述べられている「他者の未来の状態／行為に対する予測」以外を表す時には容認可能であることを見ていく。(33)-(36)は、A が全て「他者（の現在の状態／完了した行為）に対する推測」を表す例であり、(10)には抵触しておらず容認可能な例である。(33)の B は、「事実の記述」を表している。

- (33) a. 美味しそうに見えるかもしれないのに、お客さんに全然人気がない。
b. 美味しそうに見えるかもしれないのに、誰も手を付けようとしなかった。
c. その傘はおそらく壊れているのに、それを使うしかない状況だ。
d. ?食べてみたら絶対おいしいと思うのに、食あたりが怖くてなかなか手を出せない。
e. その傘はおそらく壊れているのに、私はそれを使っている。

(34)は、B も「他者（の現在の状態／完了した行為）に対する推測」を表す例である。

- (34) a. 弟ははりきって遠足の準備をしようなのに、雲行きがどんどん怪しくなっている気がする。
b. 美味しそうに見えるかもしれないのに、お客さんにはうけがよくなさそうだ。

(35)は、B が「他者の未来の状態／行為に対する予測」を表す例である。

- (35) a. その傘はおそらく壊れているのに、それを使うしかない状況になるだろう。
b. その傘はおそらく壊れているのに、母はあえてそれを持っていこう。
c. このみかんはおそらくとても甘いのに、妹は食べないだろう。

(36)は、B が「自分の気持ち」を表す例である。

- (36) a. ?その傘はおそらく壊れているのに、私は捨てられないかもしれない。
b. その傘はおそらく壊れているのに、私は使ってしまうかもしれない。
c. 満席とは限らないのに、電話で確認もせずにあきらめるなんて。

次に、(37)-(41)は、A が全て「事実の記述」を表す例で、これも(10)に抵触することなく容認可能な例である。(37)の B は、「他者（の現在の状態／完了した行為）に対する推測」を表している。

- (37) a. 田中さんは 80 歳なのに、実は足が速いかもしれない。

- b. 桃さんはブログを書いているだけなのに、すごい収入があるんだろうなあ。
- c. 彼はアルバイトなのに、店長に見えるかもしれない。
- d. 彼はやっとの思いで会場についたのに、すぐに帰らされたかもしれない。
- e. 今日のゴミ捨て当番は私なのに、もう田中さんが捨ててくれたかもしれない。

(38)は、Bが「自分の他者に対する評価」を表す例である。

(38) 彼は学生なのに、サラリーマンみたいだ。

(39)は、Bが「他者の未来の状態／行為に対する予測」を表す例である。

- (39) a. ?太郎は必死に笑いをこらえているのに、花子の顔を見たら思わず吹き出してしまうかもしれない。
- b. ?私はとても彼に尽くしているのに、彼は浮気するだろうな。
 - c. 髪を切ったのに、誰も気づいてくれないだろうなあ。
 - d. 髪を切ったのに、誰も気づいてくれないかもしれない。
 - e. 田中さんは80歳なのに、足が速くなるかもしれない。
 - f. 彼はやっとの思いで会場についたのに、すぐに帰られるかもしれない。
 - g. ?ニュースを見る限り天気はとてもいいのに、洗濯物は乾かないかもなあ。
 - h. 彼は12時に起きたのに、3限の授業に間に合うだろうな。
 - i. 彼女は動物が大好きなのに、動物に関わる仕事には就かないかもしれない。

(40)は、Bも「事実の記述」を表す例である。

- (40) a. ちゃんとなついてくれる猫ばかりなのに、この子だけは人間嫌いが治らない。
- b. そのスカートは僕が高校生の頃に流行ったのに、今また流行しているらしい。
 - c. 感染しない人もまれにいるのに、娘もやはり感染した。
 - d. 投資した分返ってくることもあるにはあるらしいのに、やはり借金が増えてしまった。
 - e. ちゃんとなついてくれる猫はほとんどいないのに、この子はとてもなついてくれた。
 - f. 野菜嫌いな子供はたくさんいるのに、洋子ちゃんは野菜という野菜全て食べられるの。
 - g. 12時に起きたのに、3限の授業に間に合った。
 - h. 彼はやっとの思いで会場に着いたのに、すぐ帰らされた。
 - i. 彼は必死に笑いをこらえていたのに、吹き出してしまった。
 - j. 田中さんは80歳なのに、足が速い。
 - k. 私はとても彼に尽くしているのに、彼は浮気している。

(41)は、Bが「自分の気持ち」を表す例である。

- (41) a. ?12時に起きたのに、3限の授業に間に合いそうだ。
- b. その傘は壊れているのに、私はそれを捨てられないかもしれない。
 - c. このスカートは僕が高校生の頃に流行ったのに、今また流行しているだなんて。
 - d. 彼はやっど先生に会えたのに、お礼も伝えられなかっただなんて。

(42)-(45)は、Aが全て「自分の他者に対する評価」を表す例であり、(10)には抵触していない。

(42)のBは、「自分の他者に対する評価」を表している。

- (42) a. ?彼女は無愛想なのに、私とは仲良くなれそうだ。
- b. ?彼女は無愛想なのに、多くの人と仲良くなれそうだ。
 - c. ?彼女はまだ若いのに、しっかりした母親になるに違いない。
 - d. ?彼は外ではとても明るい人なのに、家では静かそうだ。
 - e. ?彼女は無愛想なのに、いい人そうだ。
 - f. ?彼女は無愛想なのに、人気がありそうだ。
 - g. 美味しそうなのに、食べてみるとそうでもない。
 - h. 美味しそうに見えるのに、食べてみるとそうでもない。

(43)は、Bが「他者の未来の状態／行為に対する予測」を表す例である。

- (43) a. 美味しいのに、お客さんにはうけないかもしれない。
- b. 美味しそうに見えるのに、お客さんにはうけないかもしれない。
 - c. 私は彼を優しい人だと思うのに、きっと母は彼を見た目で悪い人だと決めつけるだろう。
 - d. 彼女はまだ若いのに、しっかりした母親になるだろうなあ。
 - e. 彼女は無愛想なのに、私とは仲良くなれるかもしれない。
 - f. 彼女は無愛想なのに、山田くんとは仲良くなれるかもしれない。
 - g. 彼女は無愛想なのに、人気が出るかもしれない。

(44)は、Bが「事実の記述」を表す例である。

- (44) a. 彼女は無愛想なのに、人気がある。
- b. 彼女は無愛想なのに、いい人だと評判だ。
 - c. 彼女、見た目は派手なのに、実はすごく純粋な人らしい。
 - d. せっかくのいい機会なのに、行けそうにない。
 - e. せっかく誘ってくれたのに、断わっちゃった。

- f. せっかくの機会だったのに、私は自ら放棄してしまったのだ。
- g. 彼女がせっかく用意してくれたのに、私はそのドレスを着ようとしなかった。
- h. 美味しそうに見えるのに、お客さんに全然人気がない。
- i. 彼女はまだ若いのに、しっかりした母親だ。
- j. 昨日の会議はとても大事だったのに、私は失敗してしまった。

(45)は、Bが「自分の気持ち」を表す例である。

- (45) a. 明日の会議はとても大事なのに、私は失敗してしまうかもなあ。
- b. 今日はせっかく休みなのに、何もせずに終わるんだろうな。
- c. その飲み会を盛り上げられるのは私しかいなさそうなのに、私はきっと行けないだろう。
- d. 明日の飲み会はすごく楽しそうなのに、私はきっと行けないだろう。
- e. 昨日の会議はとても大事だったのに、私は失敗してしまったかもしれない。
- f. 強気で勝負すれば絶対優勝するに違いないのに、どうしてそんなに弱気なの!?
- g. 顔もよくて性格もいいのに、どうして長い間彼女がいないんだろうね。
- h. せっかくのお誘いだっなのに、断わっちゃってごめんね。
- i. せっかく誘ってくれたのに、断わっちゃって申し訳なかった。
- j. 強気で勝負すれば絶対優勝するに違いないのに、彼は弱気だからなあ。

(46)-(50)は、Aが全て「自分の気持ち」を表しており、(10)には抵触しておらず、容認可能な例である。(46)のBは、「他者の未来の状態／行為に対する予測」を表している。

- (46) a. 信じているのに、彼女は私を裏切るかもしれない。
- b. こんなに髪を切ったのに、誰も気づいてくれないかもなあ。
- c. ?私はこんなに彼に尽くしているつもりなのに、彼はまた浮気するだろうな。

(47)は、Bが「他者（の現在の状態／完了した行為）に対する推測」を表す例である。

- (47) a. 私はこんなに彼が好きなのに、彼は私の気持ちに気づいていないんだろうな。
- b. (彼女は) やっと先生に会えたのに、お礼も言えなかったんだろうな。
- c. 信じていたのに、彼女は私を裏切ったのかもしれない。
- d. 君が怒る気持ちはよく理解できるのに、君はいつもにこにこしてまるで怒っていないようだ。
- e. もちろん行くのに、皆私は不参加だと思い込んでいたようだ。

(48)は、Bが「事実の記述」を表す例である。

- (48) a. 私は少し遅れるかもしれないのに、連絡を入れなかった。
- b. こんなこと言うなんてどうかしてると思うのに、私はつまらないジョークばかり言うってしまう。
- c. 彼と話してみたいと思うのに、なかなか勇気が出ない。
- d. せめてイルカだけでも見られればよかったのに、結局見られなかった。
- e. せめて60点は取りたいと思っていたのに、50点しか取れなかった。
- f. せめて60点は取りたいと思って臨んだ試験だったのに、80点も取れた。
- g. 宿題をしようと思ったのに、母に洗い物を頼まれて出来なかった。
- h. 行くつもりだったのに、行けなかった。
- i. せめて土日の忙しいときだけでも手伝ってくれればいいのに、遊んでばかりだ。
- j. 安いんだからこの機会に行けばいいのに、行かないんだってさ。
- k. せっかく沖縄旅行に行ったのに、台風が来て海を見れなかったよ。
- l. せっかく宿題をしようと思ったのに、母に洗い物を頼まれて出来なかった。
- m. はるばる沖縄まで旅行に行ったのに、台風が来て海が見れなかったよ。
- n. わざわざ沖縄まで旅行に行ったのに、台風が来て海が見れなかったよ。
- o. 嵐のコンサートにどうしても行きたかったのに、チケットが外れてしまったの。
- p. 信じていたのに、彼女は私を裏切った。
- q. やっと先生に会えたのに、お礼を言いそびれてしまった。
- r. 私は彼に尽くしているつもりなのに、友人は私を批判する。

(49)は、Bが「自分の他者に対する評価」を表す例である。

- (49) a. 私は彼を店長に指名したいのに、彼はまだ若すぎる。
- b. 彼とじっくり話してみたいと思うのに、彼はあまりにもシャイだ。

(50)は、Bが「自分の気持ち」を表す例である。

- (50) a. 嵐のコンサート絶対行きたいのに、チケット外れるだろうなあ。
- b. 嵐のコンサート絶対行きたいのに、チケットが外れると思う。
- c. 嵐のコンサート絶対行きたいのに、私は抽選に外れると思う。
- d. ラーメンはあまり好きではないのに、このだけは好きなんです。

以上で挙げた(33)-(50)の例は、Aに「他者の未来の状態／行為に対する予測」を表す内容が来る場合以外であり、全て容認可能であるため、(10)の内容に矛盾しない。また、これらの容認可能な例の中には、AとBの組み合わせが「他者（の現在の状態／完了した行為）に対する推測」と「自分の他者に対する評価」の場合や、Bが「自分の未来の行為に対する意思」の

場合、そして、Aが「自分の未来の行為に対する意思」でBが自分に関することを表す場合は含まれていない。よって、(9)(11)(12)の内容にも矛盾していないと言える。

ここまでの考察をまとめると、以下の表ようになる。

(51)

B A	事実の記述	他者の未来の状態／行為に対する予測	他者に対する推測	自分の他者に対する評価	自分の未来の行為に対する意思	自分の気持ち
事実の記述	(40) ○	(39) ○	(37) ○	(38) ○	(21) ○	(41) ○
他者の未来の状態／行為に対する予測	(19) ○	(17d) ×	(17e) ×	(17a,b) ×	(20c)(24) ×	(17e) ×
他者に対する推測	(33) ○	(35) ○	(34) ○	(14)(16) ×	(20d)(25) ×	(36) ○
自分の他者に対する評価	(44) ○	(43) ○	(13)(15) ×	(42) ○	(20a)(22) ×	(45) ○
自分の未来の行為に対する意思	(30) ○	(31) ○	(32) ○	(27) ×	(26)(29) ×	(28) ×
自分の気持ち	(48) ○	(46) ○	(47) ○	(49) ○	(20b)(23) ×	(50) ○

上の表の通り、(9)-(12)に抵触していない「AノニB」文は、逆接を表す文において、全て容認可能である。

3. 先行研究との比較

逆接表現に関する研究は多々あるが、ノニの生起について述べたものは多くはない。以下では、先行研究におけるノニの分析を概観し、本論文の主張がより妥当であることを示す。

3.1. 角田 (2004)

3.1.1. 角田 (2004) の主張

角田 (2004) は、ノニの生起条件について(52)-(54)を主張している。

(52) ノニは、「現象描写」と「判断」のレベルの主節と共起する。ただし、「判断」のとき、話者自身の意志を表す主節とは共起しない。(角田 2004:p.41)

(53) ノニは、「働きかけ」のレベルの主節と共起するが、否定的な意味のある場合に限られる。(角田 2004:p.41)

(54) ノニは、すでに前後して、あるいは同時に成立している二つの事態が、話者の予測や期待と相容れない場合を表す。(角田 2004:p.43)

(55a)の主節「試験に落ちた」は、実際に起きた現象を表しているため「現象描写」である。(52)の主張に従うと、ノニは「現象描写」と共起することが可能であるはずであり、事実(55)は容認可能である。

(55) a. 太郎はよく勉強したのに、試験に落ちた。(角田 2004:p.41(2-125))
b. 何度も言っているのに、ちっとも言うことを聞かない。(角田 2004:p.41(2-126))

(56)のノニの後ろには、省略があると考えられ、例えば(56a)には「～のに娘が留守で」という「～テ」節が省略されていると考えられるので、(56a)は現実事態のぶつかり合いだと言える。よって、(56)は「現象描写」であり、(52)の通り(56)は容認可能である。

(56) a. わざわざ来てくれたのに、どうもすみません。(角田 2004:p.42(2-134))
b. 雨が降っているのに、どうもありがとう。(角田 2004:p.42(2-135))

(57a)の主節「贅沢をするべきではない」は、話者の判断を表しているため、「判断」であるが、話者自身の意志を表しているわけではない。一方、(57b)の主節「試合を続行するつもりだ」は話者の判断を表し、さらに「～つもりだ」により話者自身の意志が表れている。そのため、(52)に従うと、(57a)は容認可能に、(57b)は容認不可能となるはずである。事実、(57)の対比は観察されることから、(52)は妥当である。

- (57) a. 年収が減るのに、贅沢をするべきではない。 (角田 2004:p.41(2-127))
 b. *雨が降っているのに、試合を続行するつもりだ。 (角田 2004:p.41(2-129))

(53)の主張を仮定すると、禁止の依頼を表す「～ないでください」を含む(58a)は容認可能であると予測され、肯定的な依頼を表す「～してください」を含む(58b)は容認不可能であると予測される。(58)の通り、(58a)は容認可能であり、(58b)は容認不可能であることから、(53)の主張は正しいものである。

- (58) a. 仕事をしているのに、大きな声で話さないでください。 (角田 2004:p.41(2-130))
 b. *仕事をしているのに、静かにしてください。 (角田 2004:p.41(2-132))

(59)は、すでに起きた事柄であるが、「結果はどうなるか分からない」という話者の気持ちや思考の移り変わりを表している。そのため、(54)が正しいとすると、(59)は容認不可能だと予測される。事実、(59)は容認不可能である。

- (59) *クルミもつられニコッと笑ったのに、これからどうなるんだろうと、ちょっと不安になった。 (角田 2004:p.43(2-146)一部改変)

このように(52)-(54)を主張することで、ノニの事実に説明を与えている。

3.1.2. 本論文の主張の優位性

角田 (2004) の(54)の条件に従うと、ノニはすでに成立している事柄に対してしか使えないはずであるが、(60)は、未来のことを表す文脈であるにもかかわらず、容認可能である。

- (60) a. 私は緊張して上手く演奏できないかもしれないのに、多くの観客が開幕を心待ちにしている。
 b. これから居酒屋に行くつもりなのに、もう焼酎を2杯飲んでしまった。

(60a)のAは「自分の気持ち」、Bは「事実の記述」を表しており、また、(60b)のAは「自分の未来の行為に対する意思」、Bは「事実の記述」を表している。これらはどちらも、容認されないノニの(9)-(12)の条件に抵触しないため、容認可能なノニである、と説明することができる。この点において、本論文の主張は角田 (2004) よりも多くのノニの例に対して説明を与えることができる。

3.2. 蘇鷹 (2007)

3.2.1. 蘇鷹 (2007) の主張

ノニの容認可能性について、蘇鷹 (2007) における主張は以下の2点である。

- (61) ノニは、対立関係の強い<逆接><対比>の場合、容認される。

- (62) ノニは、対立関係の弱い<展開><前置き>の場合、容認されない。

(63a)において、後件「アリはそうじゃない」は、前件「誰も俺のことなんか尊敬してくれない」を否定しており、前後件に否定関係による対立関係が見られるため、<逆接>だと言える。また、(63b)は、「年金は増えない」と「物価と税金だけがどんどん上昇する」が「対比するもの」と「対比されるもの」に分類されるため、<対比>である。(61)によると、(63)の例はどちらの場合にも容認可能であると予測され、事実、(63)は全て容認可能である。

- (63) a. 俺はアリが心の底から好きだ。誰も俺のことなんか尊敬してくれないのに、アリはそうじゃない。 (蘇鷹 2007:p.267(20)一部改変)
 b. 年金は増えないのに、物価と税金だけがどんどん上昇する。 (蘇鷹 2007:p.268(21))
 c. 人が使っているのに、黙って持っていく。 (蘇鷹 2007:p.273(29a))
 d. これまで何とか生き延びてきたのに、むざむざ死んだ。 (蘇鷹 2007:p.273(30a))
 e. 体の調子が悪いのに、働く。 (蘇鷹 2007:p.273(31a))
 f. 足が痛いのに、そんなに遠くまで歩け。 (蘇鷹 2007:p.273(32a))
 g. 人が使っているのに、黙って持っていくなんて。 (蘇鷹 2007:p.273(29b))
 h. これまで何とか生き延びてきたのに、むざむざ死んでたまるか。 (蘇鷹 2007:p.273(30b))
 i. 体の調子が悪いのに、働くな！ (蘇鷹 2007:p.273(31b))
 j. 足が痛いのに、そんなに遠くまで歩けませんよ。 (蘇鷹 2007:p.273(32b))

蘇鷹 (2007) によると、前件と後件が時間順序に沿って並んでおり、前件が後件を理解するための土台となっている場合は、<展開>である。(64a)の前件「あたしの実家ではみんなが集まってお茶を飲んだ」は、後件「それは単なる習慣ですわ」を理解するための土台となっているため、<展開>であると言える。また、(64b)において、前件「ねえ登美子さん、あなたに一度聞いてみたいと思っていた」と後件「寺坂さんをどう思う？」に対立関係はなく、前件は後件を理解するための前提であるため、(64b)は<前置き>である。よって、(62)により、(64)は容認不可能だと予測でき、事実、(64)は容認不可能であるため、(62)の通りである。

- (64) a. *あたしの実家ではみんなが集まってお茶を飲んだのに、それは単なる習慣ですわ。 (蘇鷹 2007:p.266(18)一部改変)

- b. *ねえ登美子さん、あなたに一度聞いてみたいと思っていたのに、寺坂さんをどう思う？ (蘇鷹 2007:p.267(19))

3.2.2. 本論文の主張の優位性

(61)の通り、蘇鷹(2007)はAとBがどのような関係の時に容認可能であるかという点について述べている。しかし、<逆接>の対立関係であっても(65)のように、実際は容認不可能な例もある。この事実は蘇鷹(2007)の主張では説明することができない。

- (65) a. *彼女は人気があるかもしれないのに、無愛想だ。 (66)
 b. *その傘はおそらく壊れているのに、私は使える気がする。 (16a)
 c. *母は私にお見合いをすすめてくるかもしれないのに、私は一切結婚するつもりがない。 (24)

(65)の事実に対し、本論文では、2章で述べたとおり、(65a, b)は(9)に従い容認不可能だと説明することができる。同様に、(65c)も、(11)によりと容認不可能であると説明することができる。このように、本論文はノニが容認可能な場合と容認不可能な場合を正確に記述している。

3.3. 永嶋(2007)

3.3.1. 永嶋(2007)の主張

永嶋(2007)は、ノニの生起条件について、文脈の中でも特に発話者の主観的な感情が<肯定>か<中立>か<否定>によって決まる、と主張している。

- (67) 話者の感情が<中立>の場合、ノニは容認される。 (永嶋 2007:p.12,13)
 (68) 話者の感情が<否定>の場合、ノニは容認される。 (永嶋 2007:p.13)
 (69) 話者の感情が<肯定>の場合、ノニは、文によって容認される場合もされない場合もある。 (永嶋 2007:p.13)

(70)は、話者の非難の意図がはっきりしていない中立の立場の文である。(70)は全て容認可能であるため、話者の感情が中立の場合ノニは容認可能であるという(67)の通りである。

- (70) a. 薄給のサラリーマンなのに、高い車に乗っている。 (永嶋 2007:p.12(31a)一部改変)
 b. あの家の犬は大型犬なのに、臆病でよく吠える。 (永嶋 2007:p.13(31b)一部改変)

(71)は、「不愉快だ」や「彼は卑怯だ」というフレーズにより、話者の非難する意図がはっきりと表れている否定の立場の文であるため、(68)に従うと容認可能だと予測される。事実、(71)

は容認可能であり、(68)の通りである。

- (71) a. あの人は肝心な時に黙っていたのに、今頃あれこれ口を出されては不愉快だ。 (永嶋 2007:p.4(10a)一部改変)
 b. 僕も彼女を好きだと知っていたのに、抜け駆けをするなんて彼は卑怯だ。 (永嶋 2007:p.4(10b)一部改変)

(72)は、話者が肯定の立場の文であり、(69)によって、容認可能な文と容認不可能な文が混在していることが予測される。実際、(72a)は容認可能であるのに対し、(72b,c)は容認不可能であるため、(69)の通りである。

- (72) a. 彼は苦学していたのに、東大に見事合格した聡明な青年だ。 (永嶋 2007:p.13(35a))
 b. ??日本チームは優勝したイギリスに敗北したのに、2位という好成績を残せてよく頑張った。 (永嶋 2007:p.13(35b))
 c. *突然のことでとても驚いたのに、とても嬉しかった。 (永嶋 2007:p.3(6c)一部改変)

3.3.2. 本論文の主張の優位性

永嶋(2007)の主張する(67)-(69)だけでは、(73)のような話者が否定の立場であるにも関わらず容認不可能な例に対して説明を与えることが出来ない。

- (73) a. *美味しそうに見えるかもしれないのに、食べてみるとそうでもない。
 b. *母は私にお見合いをすすめてきそうなのに、私は行きたくもない。

本論文では、(73a)は、Aが「他者(の現在の状態/完了した行為)に対する推測」でBが「自分の他者に対する評価」であるため、上述した(9)の通り容認されないと説明することができる。また、(73b)に関しても、Aが「他者の未来の状態/行動に対する予測」でBが「自分の未来の行為に対する意思」であるため、上述した(10)(11)の通り容認されないと説明することができる。このように、本論文では、ノニがどのような場合に容認可能であり、どのような場合に容認不可能であるか、について正確に特定し、説明を与えることができる。

4. まとめと今後の課題

本論文では、逆接を表しているにもかかわらず容認されないノニを中心に「A ノニ B」を観察することで、ノニの生起条件を明らかにした。(9)-(12)がノニの生起条件である。

- (9) 「A ノニ B」は、A と B の表す内容が「自分の他者に対する評価」と「他者（の現在の状態／完了した行為）に対する推測」である場合、語順に関係なく容認されない。
- (10) 「A ノニ B」は、A が「他者の未来の状態／行為に対する予測」を表している場合には、容認されない。ただし、B が「他者（の現在の状態／完了した行為）に対する推測」もしくは「事実の記述」を表す場合に限り、容認可能である。
- (11) 「A ノニ B」は、B が「自分の未来の行為に対する意思」を表している場合には、容認されない。ただし、A が「事実の記述」を表す場合に限り容認される。
- (12) 「A ノニ B」は、A が「自分の未来の行為に対する意思」を表し、B が「自分に関すること」を表している場合には、容認されない。

上述の通り、ノニがケドとの言い換えが可能であるかどうかという点は、これまで多くの先行研究において検討されてきた。しかし、以下で示すように、ケドに対しては、ノニと同様の説明を与えることはできない。例えば、ノニは容認可能であった、A が「自分の未来の行為に対する意思」を表し、B が「事実の記述」を表す組み合わせのとき、ケドは、(74)の通り容認可能なものと容認不可能なものがある。

- (74) a. *今から飲み会に行くつもりだ**けど**、もうビールを飲んでしまった。
b. 私は今夜も友達と夜遊びするつもりだ**けど**、母は夜遊びは許さないと怒っている。

また、ノニは容認不可能であった、A が「自分の他者に対する評価」を表し、B が「自分の未来の行為に対する意思」を表す組み合わせのときには、ケドは、(75)の通り容認される。

- (75) a. 明日の飲み会はすごく楽しそうだ**けど**、私は行かないつもりだ。
b. 彼はとてもいい人だ**けど**、一緒に食事には行かないつもりだ。

このように、ケドに対してノニと同様の説明を与えることは妥当でなく、ケドはノニと異なる生起条件を考える必要がある。ケドの容認可能性を説明する生起条件を提示することは、今後の課題としたい。

参考文献

- 池上素子 (1997) 「「のに」・「ながら」・「ものの」・「けれども」の使い分けについて」『北海道大学留学センター紀行』 1: 18-37, 北海道大学留学生センター.
- 今尾ゆきこ (1993) 「「ノニ」の機能」『名古屋大学人文科学研究名古屋大学人文科学研究』 22: 75-84, 名古屋大学大学院文学研究科.
- 金勝漢 (1991) 「接続助詞「が」「のに」の意味・用法をめぐって」『国文学論集』 24: 125-141, 上智大学.
- 蘇鷹 (2007) 「逆接接続助詞「けど」と「のに」」『千葉大学ユーラシア言語文化論集』 10: 257-274, 千葉大学.
- 角田三枝 (2004) 『日本語の節・文の接続とモダリティ』 東京:くろしお出版.
- 永嶋いづみ (2006) 「非難の文脈と逆接助詞」 卒業論文, 九州大学.
- 中溝朋子 (2003) 「いわゆる逆接のケドとノニの互換性について」『大分大学教育福祉科学部研究紀要』 25(1), 87-96, 大分大学.
- 丹羽哲也 (1998) 「逆接を表す接続助詞の諸相」『人文研究』 50(10): 743-777, 大阪市立大学文学部紀要.
- 益岡隆志・田窪行則 (1992) 『基礎日本語文法—改訂版—』 東京:くろしお出版.

謝辞

本論文を執筆するにあたり、上山先生には丁寧なご指導をいただきました。ご多忙の中、貴重なお時間を割いてお話を聞いてくださり、ご指導していただきましたことを、心より感謝申し上げます。また、九州大学言語学研究室の池田則之氏には、最初から最後まで、非常に親身に相談に乗っていただきました。ご多忙であるにもかかわらず、私の意見や質問に耳を傾け、一緒に考えてくださり、たくさんの助言をいただきました。おかげさまで、無事に卒論を書き上げることができました。本当にありがとうございました。そして、坂本先生、久保先生、下地先生、あたたかいお言葉や差し入れてたくさん励ましてくださった言語学研究室の先輩方、研究室で夜遅くまで共に卒論を執筆した言語学研究室の皆様、お世話になった皆様へ心よりお礼を申し上げます。